'03年7月に開催した初写真展「AMATERASU」より。雑誌の仕事で知り合ったフォトグラファー常盤響氏の影響で始めた写真。現場で独創的かつ前衛的な着付けをしながら、魅力ある表情を撮影することに成功

「自分が着たいデザインのものを安く手に入れたくて始めた」Tシャツ制作。ゆえに、価格は一律3800円也。以前立ち上げたオリジナルブランド「PUMP」から、現在は「Juvan(ジュバン)」に名称変更

息長く根強い人気商品である、ウサギがギタリストに扮した「U-SA ROCK」シリーズ。シンガーのアンジェラ・アキも気に入って着用。現在、インターネット通販または「京都ちどりや」(http://www.chidoriyaworld.com/)にて入手可能

information

「舞妓着付け屋　花風」
京都市東山区新橋通大和大路東入ル
三丁目林下町453-3
☎075・531・3990
http://kyoto-ka-fu.com/

「Juvan」
http://www.juvan.jp/

男衆

堀切修嗣

HORIKIRI SHUJI

京KYOTIAN I.D.
京のおきばりさん

取材・文／山田涼子　撮影／石川奈都子

【プロフィール】京都生まれの京都育ち。ネイルアーティストなど数々の職業を経て、'96年に男衆の見習いとなる。また、同時に独学でデザインを学ぶ。CHARAのCD制作のグラフィックデザインに関わったのを機に、グラフィックムービー、デザイン、フォトワークにと多方面で活躍中。複数の顔を持つ中、本職である男衆の知識と技を活かして、「舞妓着付け屋　花風」を創設、代表として監修も行う。

わずか10分に凝縮される「美」の追求に魅せられた男

「男衆」と書いて、「おとこし」と読む。京都以外、いや花街以外ではまだまだ馴染みが薄い職業だろう。花街と言えば、芸舞妓。彼女たちが身に纏う着物は、いわば制服のようなもの。そこにあるだけで、花街を花街たらんとする。「男衆」の役割は、そんな彼女たちの着付け。彼らは、女ばかりの花街の裏側に立ち入ることを許された唯一の男たちでもある。舞妓のトレードマークともいえる「だらりの帯」は、平均6m50cm以上の一本帯。両手に持ってもずっしりと重く、これを美しく締めるのはけっこうな重労働だ。「着付け」と一言に云えど、かなりの力を要する。

男衆になって15年。いまでは弟子に暖簾分けも果たした彼だが、意外にも、花街のことばかりか、着物の知識がまったくない状態で宮川町を訪れたという。きっかけは、父親が某置屋の女将さんから「誰か、男手いいひんやろか」と受けた相談だった。男衆は舞妓に比べて、露出も少なく、圧倒的になり手が少ない。最近になってようやく、インターネットや映画で紹介されているのをきっかけに門を叩く人も増えたが、「シビアに金銭的な問題や、向き不向きで続かない人もいる」のが現状だ。自分自身を振り返ってみても、「なぜ続いているか分からない」と言う。「当初1年という約束で始めたので、ほんまに1年経ったら辞めようと思っていました。けど、1年後には辞めたら迷惑をかける状態で…」、辞めるに辞められなくなっていた。

ひとりの芸舞妓につき、着付けは10分以内。驚くべき早さである。その間は、芸舞妓たちの「おにいさん」に対する相談タイムでもある。たった10分間に様々なやりとりがあり、その中で答えを出すのも男衆の役目。「気持ちのいい状態でお座敷に送り出すことも大事」なのだ。女性に比べて口が堅く、男性だからこそ話せることもある。決して力だけが必要なのではない。「いつでも彼女たちとは対等でありたい。例えば、『今日しんどいわぁ』と言われれば、その日の体調に合わせて帯の締め方を変えたり調整しています。いまでは自分が担当している芸舞妓さんたちの体調変化は大体把握してますよ」。体型は千差万別、着付けの好みも十人十色、紐や帯の強弱で着心地の良さも変わる。それら一人ひとりに合わせた技術が求められるため、10分単位で頭を切り替え、それぞれに最も綺麗なラインをつくり上げていく。それは「その日その日の作品」だ。その数多の作品、つまり芸舞妓たちが、今宵も花街を彩る。

また、「出して良いとこはオープンにして、様々ことに対応できればもっと花街が賑わう」という持論の下、後進の指導、完全監修の本格的な舞妓体験サービスの提供、メディアへの露出および協力などにも尽力を惜しまない。彼のような風雲児たる男衆が、閉鎖的なイメージを抱かれがちな今後の花街の未来を担う存在であることは明白である。